

本日8月16日に第二種電気工事士技能試験の合格発表があった。発表の方法は試験センターのホームページ上の合格者検索から行うもので、受験番号を入力して合格者一覧にあるかどうかを調べるといふもの。正午から検索可能になったがアクセス集中のためサーバーが遅くなったり停まったりで何度かトライすることになった。そして恐る恐る検索ボタンをクリックして表示された結果は「合格者一覧にあります」だった。が、氏名が表示されていないので受験番号を何度も確認してやっと安心することができた。間違っていなければ後日正式な合格通知書が郵送されてくる。それを添付して今月末までに免状（＝免許証）申請すれば10月初旬には免状をゲットしてペーパー電気工事士になれる見込みだ。

ということで、今回は上記の電気工事士資格取得チャレンジの顛末と以下の今後について寄稿させていただく。さて、次のボケ対策としてのチャレンジは、①電気工事士の第一種の勉強継続、②米国ハム免許 Extra 取得、③日本史の再勉強、とすることにした。

①は第二種の受験勉強を通して興味が湧いた強電についてもっと知りたくなったためだが、第一種は受験料1万円以上をかけて合格しても実務経験が3年以上なければ免状を取得できないので、恐らく勉強のみになるかと。そうすると資格取得することによる勉強の成果を確認できないため、モチベーション維持が難しいかも知れない。が、過去問で合格点が取れるレベルを目指して参考書を1日1ページのペースで読み進めていくことにする。

②は240総会でJH1RCAさんがExtraを取得されたと聞いて刺激を受け、当局も再チャレンジしたくなったためである。若い頃、6年弱の米国駐在中にAdvancedまでは取得したが（2X2コール、Extraの一つ下、当時は5資格で今は3資格になったためAdvancedとNoviceは廃止）、帰国のためExtraだけ取りこぼした経緯があったのでExtraの受験だけで済むかと考えたが、元上司で元ボランティア試験官に確認したところ免許が失効しているのでTechnicianに再合格すればAdvancedが復活してExtraを受験できるとのことだった。この歳でいきなりExtra受験はハードルが高いのでまずはTechnicianで英文読解練習を始めることにした。

③は7年目でやっと文科省教科書検定に合格した竹田恒泰著書の中学生用歴史教科書（国史）が今話題になっているので、早速入手して再勉強（というより読書に近い）を始めた。既に「光る君へ」の平安時代を過ぎて室町時代まで読み進んでいる。中学生の頃に学習した記憶が蘇ったり、昔と変わっていたり（単に記憶違い？）、最新の学説による史実の併記など結構興味深い。ここまで読んできたなかで特に日本の磨製石器、縄文土器は世界最古級ということが誇らしい！ 縄文が今世界からも注目されているようだ。著者が言っているように受験用最高レベルの教科書のようなのでとても詳しく情報が多。い。（厚さ2.5cm）中学生の私だったら覚えきれない内容で既にお腹いっぱいなところも多数あるが、寝る前の日課としてこの読書を継続する。歴史検定があれば、チャレンジも面白いかも知れない。

ということで、これまでのボケ対策シリーズはいくつかの資格が取れたことにより多少は効果が有った（個人の感想）ということにして今回で一区切りとしたい。今後は何か報告できることが発生した場合（Extra取得など）に寄稿させていただくことにする。

今回も雑駁な寄稿となりましたが、これが誰かのボケ対策（自己啓発）に繋がれば幸いです。Tnx！